

ご挨拶

第57回全国大会は10月27、28日の両日、琉球大学において開催されました。大会初日、台湾からお迎えした戴浩一教授が招待講演の壇上を降りた直後に心臓発作を起こされ、会場での応急蘇生処置を経て救急車で緊急入院されるという、まさに一刻一秒を争う緊急事態が発生しました。会場は大きな動揺と不安と緊張に包まれ、まことに予期せぬ幕開けとなりました。およそ一時間後に病院からの一報が届き、幸いにも会場での迅速適切な蘇生処置が功を奏して、戴教授はその後しっかりと意識を回復され、危機的状况をほぼ脱せられた、とのこと。総会を控えた会場には安堵の歓声と拍手が沸き起こり、南の島の爽やかな風にも助けられて会場は一気に活気を取り戻しました。その後は、総会、懇親会、翌日の一般発表、すべて滞りなく執り行われ、28日夕刻、総計二百数十名の参加者を数えて、大会は盛況のうちに幕を閉じました。大会準備会の皆様、理事、評議員、各種委員、司会、その他さまざまな形でご協力をいただいた皆様、そして参加者の皆様に御礼申し上げます。とりわけ、極度の緊張を強いられる不測の事態に見舞われつつも、見事なチームワークを以って冷静かつ俊敏に事に当たられ、その後さしたる混乱もなく首尾よく大会を乗り切られた大会準備会の皆様およびスタッフの方々、また、担当医の伊敷医師をして「ほとんど奇跡的」と言わしめた迅速かつ適切な蘇生処置を沈着果敢に成し遂げられた合志路子さん(関西大学大学院生)と張盛開さん(東京外国語大学院生)のお二人、さらには、入院当初から戴教授に付き添い、閉会後にまで及んで献身的なサポートを続けてくださった望月圭子さん(東京外国語大学)と下地早智子さん(神戸市外国語大学)のお二人、そのほかさまざまな形で救命活動にご協力くださった多数の方々、心より感謝の意を表し、改めて厚く深く御礼申し上げます。

私どもは今回の事態を重く受け止めております。今回は、講演会場に看護師の経験をおもちの会員が偶々居合わせられたこと、AEDが会場に比較的近い場所に設置されていたこと、またその場所を準備会の石崎博志さんが確実に把握されていたこと(そして、それを逸早く会場に届けられた石崎さんが俊足の持ち主であったこと)、琉球大学附属病院が会場から救急車で数分の至近距離に位置していたこと等々、いくつかの僥倖に(「ほとんど奇跡的」に)助けられ、幸いにも最悪の事態には至りませんでした。しかし、では、こうした事態を、事務局をはじめ関係者が予め想定していたかと問われると、遺憾ながら、口重く俯かざるを得ません。今回の事態を教訓とし、今後の大会開催に当たっては、火災や地震のみならず、医療に関わる緊急事態に対しても十分に配慮し、然るべき応急の備えを以って臨むことが必要です。またそのための適切な予算措置も考慮されなければならないでしょう。

図らずも波乱の幕開けとなった大会ではありましたが、二日目の一般発表では、昨年にも増して多数の若手海外会員の参加を得、活発な議論が交わされました。参加者のみなさんの顔が、心做しか、どなたも晴れやかに伸びやかに見えたのは、琉球の地の風水の賜物でしょうか。爽やかな成果と貴重な教訓を与えてくれた本大会は、参加された方々の記憶に深く永く留まる、忘れがたい大会の一つとなることでしょう。

私がニューズレターを通して会員の皆様にご挨拶を申し上げるのは、これが最後になります。前例に倣えば、このあたりで、会長在任中にご支援をいただいた皆様への謝辞と次期会長へのエールを綴って筆を置くべきところですが、実際には私の任期はなお4ヶ月余り残されています。今回の事態を通して、何事も幕が降り切るまでは何が起こるか分からないという人生訓を痛感した身の上としましては、この時期にま

だまだ幕引きのご挨拶を述べる心境には至りません。敢えて前例を破るご無礼をお詫びし、気を引き締め直して残り4ヶ月の業務に専心したいと存じます。

最後になりましたが、今回の救命活動に際し、会場でのCPRおよび人口呼吸による蘇生処置に直接的な貢献をされた合志路子さんと張盛開さんのお二人に、学会を代表して感謝状を贈らせていただいたことを、この場を借りて広く会員の皆様に報告させていただきます。戴教授は、10月31日に無事手術を終えられ、一週間後の11月7日、元気に帰国されました。予後の無恙とご健康の早期回復をお祈りしつつ、秋恒例のご挨拶とさせていただきます。

2007年11月22日 日本中国語学会会長 木村英樹



理事選挙 結果報告

第57回全国大会第1日目(琉球大学、2007年10月27日)に理事選挙が行われました。開票の結果、以下の方々が次期(2008-09年度)会長及び理事に当選されました(「会長及び理事選出に関する内規」参照)。なお副会長につきましては、後日、会長が理事の中から委嘱することになります。

当選者並びに各得票数は以下の通りです。

投票総数 580 票(うち、有効投票総数 534 票、白票 37 票、無効票 9 票)

得票数: 杉村博文会員 74 票(2008-09年度会長)

荒川清秀会員 48 票、佐藤晴彦会員 47 票、平田昌司会員 41 票、岩田礼会員 38 票、木村英樹会員 31 票、古川裕会員 29 票、遠藤光暁会員 16 票(以上7名、2008-09年度理事)

以上

選挙管理委員長 町田茂



会議報告

■2007年度第3回『中国語学 254号』編集委員会報告

日時:2007年8月27日(月)13時~16時 場所:太田委員長自宅

出席者:太田斎(委員長);井上優、小野秀樹、木津祐子、沈国威(以上、委員)

【議事】

1. 掲載論文の校正経過について

- ・ 初稿の修正箇所が多い論文について、内容の変更が無いことを確認した。
- ・ 投稿論文の校正には内容修正が認められないということ、学会HPで通知する。

2. 『投稿規程』の改定
 - ・改訂版の 255 号への掲載を目指し、改定内容を確認した。
 - ・締め切りの取り扱いと投稿の宛先について、学会 HP で周知徹底を図る。
3. 『執筆要領』の改定
 - 5 月の理事会で承認されたものの中国語版と英語版を作成し、学会 HP に掲載する。
4. 255 号『査読報告書』及び査読体制の検討
 - 次号から、点数制を廃止し、査読者には、SABCD の 5 段階で評価してもらうようにする。査読結果は基本的に非公開とし、査読者に他の査読者の報告内容を開示しない。
5. 依頼論文
 - 特集を含む依頼論文の企画および掲載に関しては、今後も編集委員会が決定主体として機能することを理事会において確認する。
6. 海外特別編集委員
 - 委任の経緯について確認する。
7. 254 号三校チェック分担
 - 中西印刷所に、二校もどしと三校を、それぞれの担当編集委員に送付するよう依頼。
8. 編集委員会の開催スケジュール
 - 審議の時間、及び理事会への報告資料作成の時間を確保するために、次年度は、第 2 回の編集委員会を 5 月の理事会直前に開催し、第 3 回編集委員会を 9 月下旬に開催することを理事会に要望する。

■2007 年度評議会・総会報告(10 月 27 日琉球大学法文学部新棟 111・215 教室)

I. 報告事項

1. 会務報告

(1) 会員動向

総会員数 1,128 名(うち顧問 6 名、名誉会員 26 名、通常会員 1,064 名、海外会員 32 名。なお名誉会員・通常会員中 142 名がネット会員);賛助会員 21 社(11 月 15 日現在確定数)。

※ 評議会及び総会では 10 月 22 日時点の数字を報告しましたが、その後内規に基づく除籍者数の確定、及び大会時に若干の新入会員を受け入れたこと等により、上記確定数を記します。

なお、昨年度の大会(2006 年 11 月 6 日確定数)以降の変動は以下の通りです。

新入会員 63 名(海外会員 11 名を含む)、退会者 25 名、除籍者 49 名、ご逝去 4 名、即ち前年同期比 15 名減。

(2) 『中国語学』発行

『中国語学』254 号、2007 年 10 月 27 日発行、発行部数 1,500 部。

(3) 支部例会報告(『中国語学』254 号「彙報」参照)

2. 編集委員会報告

(1) 編集委員会権限の明確化について

依頼論文の掲載については編集委員会が主体的に企画・決定し、必要に応じて理事会に諮る。

(2) 査読システムの改良について

- ① 編集委員による責任担当制とする。各委員が各投稿論文の責任担当者となり、担当論文については査読に当るだけでなく、査読意見の集約、初校時の書き換え状況のチェックなどを行なう。
- ② 点数制を廃止し、査読者には、SABCD の 5 段階で評価してもらうこととする。
- ③ 査読結果は基本的に非公開とし、査読者に他の査読者の報告内容を開示しない。

- ④「査読要領」の内容をより明確かつ合理的なものにすべく引き続き検討する。
- (3)「投稿規定」の改訂について
世界基準に合わせるべく、「投稿規定」の改定を現在検討中。なおサマリーについては、それが論文の一部であることから本文と同じ言語で書くのを基本とするが、本文が読めなくても内容の概略がわかるように、本文以外の言語でももう一つ書くことを基本方針とする。
- (4)編集委員会の開催について
昨年度までは年間2回の開催であったが、今年度及び来年度は3回開催するものとする。
3. ウェブリソース委員会報告
- (1)「電子通讯」の発行
毎月1回発行、発行部数162(9月末現在)。
- (2)ウェブサイトの最近の変動について
支部活動の活発化に伴う支部ページの新設(2005年度:九州支部、2006年度:関西支部、2007年度:中国支部)。
- (3)論文検索システムのデータ登録進行状況
『中国語学』第253号(2006年)のデータを制作し、学会HPに掲載した。
- (4)学会奨励賞論文の電子化作業等について
『中国語学』掲載論文の学会HPでの公開に備え、掲載許諾のある第242号以降すべての論文の電子化を行うこととした。
4. 評議員改選の提起について
現任評議員の任期が今年度末を以て満了することから、各支部に対し、後任の人選について2008年1月末までに報告を求めることとした。
5. ウェブリソース委員会委員の改選について
今年度末任期切れを迎える山崎委員長及び遠藤・竹越両委員の改選に関し、協議の結果、委員長については山崎・現委員長を再任することとした。残る委員の人選については引き続き協議を行い、後日持ち回り理事会にて決定することとした(11月1日、三宅登之・石村広両会員に新委員を委嘱することを決定)。
6. 次期全国大会開催校
京都外国語大学にて2008年10月25(土)－26日(日)開催の予定。
7. その他
第2回関東支部拡大例会を、2008年3月22日(土)に中央大学(理工学部校舎)にて開催予定。

II. 審議事項

1. 予算案・決算案
- (1) 2006年度会計決算案(後掲資料1参照)
大西幹事による報告・説明、及び山田会計監査による会計監査報告があり、報告の通り承認された。
- (2) 2007年度会計補正予算案(後掲資料2参照)
大西幹事による提案・説明があり、原案の通り承認された。
- (3) 2008年度会計予算案(後掲資料3参照)
大西幹事による提案・説明があり、原案の通り承認された。
2. 顧問・名誉会員推挙
名誉会員に桜井明治・小林立両会員が推挙され承認された。顧問の推挙はなかった。

(資料1)

日本中国語学会 2006 年度会計決算書(2006 年 4 月～2007 年 3 月)

2007 年 10 月 27 日総会承認

< 収入 >

	予 算	決 算
前年度繰越金	3,617,687	3,617,687
積立金	3,500,000	3,500,000
通常会員・海外会員会費収入	5,900,000	6,799,000
賛助会員会費収入	500,000	540,000
『中国語学』売上金	560,490	560,490
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)	900,000	900,000
印税	24,500	23,000
通常貯金利子(05/4～06/3)		1,325
計	15,002,677	15,941,502

< 支出 >

	予 算	決 算
会誌印刷費	3,200,000	3,498,290
大会助成費	950,000	950,000
名簿印刷費	600,000	651,000
支部活動助成費	600,000	568,516
通信費	650,000	419,130
事務費	950,000	956,552
事務局費	650,000	650,000
編集局費	120,000	120,000
ウェブリソース委員会経費	120,000	120,000
ホームページ関連経費	180,000	0
旅費交通費	900,000	847,840
会議費等雑費	180,000	173,326
学会奨励賞	100,000	100,000
積立金	3,000,000	3,000,000
【内訳】		
記念大会積立金(50 万)		
事務委託関係積立金(150 万)		
ウェブサイト構築積立金(50 万)		
国際会議開催支援積立金(50 万)		
予備費	2,802,677	3,886,848
計	15,002,677	15,941,502

監査の結果、経理内容は適正であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2007 年 6 月 5 日

2006 年度会計監査

山 田 忠 司

2006 年度会計監査

楊 達

(資料 2)

日本中国語学会 2007 年度会計補正予算(2007 年 4 月～2008 年 3 月)

2007 年 10 月 27 日総会承認

<収入>		<支出>	
前年度繰越金	3,886,848	会誌編集費	3,320,000
(通常貯金利子約 1300 円を含む)		大会助成費	950,000
積立金	3,000,000	支部活動助成費	600,000
通常会員会費収入	5,900,000	通信費	650,000
賛助会員会費収入	500,000	事務費	950,000
『中国語学』売上金	510,772	事務局費	650,000
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)	900,000	ウェブリソース委員会経費	120,000
印税	24,500	ホームページ関連経費	180,000
計	14,722,120	旅費交通費	900,000
		会議費等雑費	180,000
		学会奨励賞	100,000
		選挙関連経費	100,000
		積立金	3,000,000
		[内訳]	
		記念大会積立金(50 万)	
		事務委託関係積立金(150 万)	
		ウェブサイト構築積立金(50 万)	
		国際会議開催支援積立金(50 万)	
		予備費	3,022,120
		計	14,722,120

(資料3)

日本中国語学会 2008 年度会計予算(2008 年 4 月～2009 年 3 月)

2007 年 10 月 27 日総会承認

<収入>		<支出>	
前年度繰越金	3,022,120	会誌印刷費	3,200,000
積立からの繰入金	3,000,000	大会助成費	950,000
通常会員会費収入	5,900,000	支部活動助成費	600,000
賛助会員会費収入	500,000	通信費	650,000
『中国語学』売上金	450,000	事務費	950,000
計	12,872,120	事務局費	650,000
		編集局費	120,000
		ウェブリソース委員会経費	120,000
		ホームページ関連経費	180,000
		旅費交通費	900,000
		会議費等雑費	180,000
		学会奨励賞	100,000
		名簿印刷費	650,000
		積立金	3,000,000
		[内訳]	
		記念大会積立金(50 万)	
		事務委託関係積立金(150 万)	
		ウェブサイト構築等積立金(50 万)	
		国際会議開催支援積立金(50 万)	
		予備費	622,120
		計	12,872,120

●第 2 回関東支部拡大例会・研究発表募集●

来る 2008 年 3 月 22 日(土)、中央大学後楽園キャンパス(理工学部校舎)において、第 2 回関東支部拡大例会を開催いたします。発表をご希望の方は下記までご連絡ください。また詳しくは学会ホームページをご覧ください。

〒305-8571 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学人文社会科学研究所 佐々木勲人
ysasaki@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

●第 58 回全国大会開催のお知らせ●

2008 年 10 月 25(土)・26 日(日)の両日、京都外国語大学にて開催いたします。関西地区では 2004 年度の第 54 回大会(京都大学)以来 4 年ぶりの開催となります。どうぞふるってご参加ください。詳しいご案内は、2008 年 5 月下旬頃にお送りする予定です。

研究発表応募規定

1. 研究発表の申し込みは本学会会員に限る(応募時に会員であり予稿集原稿の寄稿時までには当該年度までの会費を納付していること)。ひとりの会員が、複数の発表の筆頭発表者となって申し込みをすることはできない。
2. 他学会で正式に発表したもの及び応募中のものを二重に申し込むことはできない。
3. 使用言語は、日本語・中国語を原則とする。
4. 発表希望者は、発表要旨を大会準備委員会あてに郵送もしくは宅配便により送付する。持参されたものは受理しない。申し込み締め切りは 6 月 30 日(国内郵便局消印・宅配受領印有効)とする。
5. 発表要旨は、以下の要領にしたがって、(A) 発表申込者原簿を 1 部、(B) 審査用要旨を 3 部提出する。
 - (A) 発表申込者原簿(A4 判用紙 1 枚、1 部提出)。

発表題目・氏名・住所・所属機関・職または身分(教授、院生、非常勤講師等)・連絡先(電話・e-mail・ファックス)・発表希望部会(文法語彙・文字音韻方言・教育法開発)、ある場合は、研究発表歴(最近 3 年間の主要な口頭発表、論文題目(投稿中も含む)・掲載誌)を記す。
 - (B) 審査用要旨(A4 判用紙 1 枚、3 部提出)。

発表題目、要旨本文(題目の字数を含めず、日本語・中国語で 1200 字以内、40 字×30 行)のみを 10.5 ポイント以上のフォントで印刷する。図表がある場合も、上記の分量内に収めるものとする。審査用要旨に氏名や所属は書かない。また、要旨本文中に、執筆者名が特定できるような表現を用いること及び特定の個人への謝辞を記すことは、避ける。
6. 理事会と協議の上で、大会準備委員会が採否を決定する。結果は 7 月 31 日までに郵送で通知し、学会ホームページ上に採択された発表者の氏名・発表題目を公表する。
7. 研究発表が採択された場合は、大会準備委員会の指定する期日(国内郵便局消印・宅配受領印有効)までに、大会準備委員会あて、予稿集原稿プリント(A4 判 5 ページ以内厳守。別に詳しい規定を定める)を郵送もしくは宅配便で提出する。大会準備委員会は必要に応じて電子テキストの提出を求めることがある。
8. 発表日時については、大会準備委員会が決定する。
9. 予稿集掲載論文は正規の研究論文とは見なされないもので、引用・言及にあたっては事前に発表者の了解を得るなど、相互に細心の注意を払うこととする。発表者自身が転載することに関しては、本学会大会発表論文であることを明記する限りにおいて、これを妨げない。

(京都外国語大学・第 58 回全国大会準備委員会)

※ なお、上記の「応募規定」は今後変更される可能性がありますので、研究発表にお申し込みの際は、必ず 2008 年 5 月発行予定のニューズレターに同封される全国大会案内、または学会ホームページ所載の「応募規定」にて締め切り期日・要領等を再度ご確認ください。

事務局からのお知らせ

戴浩一先生の手術からご帰国までの経緯

全国大会初日(10月27日)の午後、ご自身の招待講演終了後に倒れられた戴浩一先生は、現場で応急処置を施された後、救急車で琉球大学医学部附属病院へ搬送されました。29日にはカテーテル検査を受診し、発作の原因が狭心症であったことが判明。31日午後1時、狭心症を引き起こした左冠状動脈における二箇所狭窄箇所の内の一箇所についてカテーテル手術を行い、無事成功されました。その後、術後の経過は順調に推移され、11月6日午後にて退院。琉球大学のゲストハウスに一泊された後、翌7日の飛行機で帰国され、その日の内に無事嘉義に到着されました。

■ 名誉会員の推挙

名誉会員のご推挙は下記事務局宛にお願いします。

2007年度会費納入のお願い

会費未納の方には、振込用紙を同封しております。本年度会費(一般会員 6,000 円、ネット会員 5,000 円)を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務運営上、2007年12月20日までにご入金くださるよう御協力をお願い致します。

郵便振替 加入者名:日本中国語学会 口座番号:00120-2-536256

ネット会員制度登録へのお誘い

1. 2005年度からネット会員制度を設けています。ネット会員の申込受付は1月1日~3月20日の期間となっております。会員のみなさまの同制度への登録をお待ちしております。
2. ネット会員は、会費 1,000 円の割引を受けることができます。年度の会費請求の際、請求額が 5,000 円になります。
3. ネット会員には、ニューズレター及び研究例会(支部例会)通知が郵送されませんので、ホームページによって必要な情報をチェックしていただくようお願いいたします。
4. ネット会員を希望する会員は、学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項記入の上、学会事務局に郵便またはファックスで送付して下さい。電子メールでの申し込みは受け付けません。

学会事務局

〒113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学文学部中文研究室内

E-mail: secretariat@chilin.jp

URL: <http://www.chilin.jp/>

TEL/FAX: 03-5841-4892